Racing Topics

★中央競馬ニュース　文・谷川善久★

●ＪＲＡ平地重賞では初となる「きょうだいワン・ツー」決着

９月21日(日)の４回中山７日・第11レースとして行われた産経賞オールカマー(ＧⅡ)では、レガレイラ(牝４歳／美浦・木村哲也厩舎)が１着、ドゥラドーレス(牡６歳／美浦・宮田敬介厩舎)が２着となりました。両馬とも母はロカで、きょうだい馬によるワン・ツー・フィニッシュとしては2001年中山大障害(Ｊ・ＧⅠ)の弟ユウフヨウホウ１着・兄ゴーカイ２着(ともに母ユウミロク)の例はあるものの、ＪＲＡの平地重賞では初(グレード制が導入された1984年以降)のこととなります。

●川田将雅騎手がＪＲＡ重賞レース通算150勝を達成

９月21日(日)の４回阪神７日・第11レースとして行われた神戸新聞杯(ＧⅡ)ではエリキングが１着となり、同馬に騎乗した川田将雅騎手(栗東・フリー)は、史上６人目・現役４人目となるＪＲＡ重賞レース通算150勝を達成しました。

●青木孝文調教師がＪＲＡ通算100勝を達成

９月20日(土)の４回中山６日・第９レースとして行われたカンナＳではウチュウノセカイが１着となり、同馬を管理する青木孝文調教師(美浦)は、現役144人目となるＪＲＡ通算100勝(延べ2283頭目)を達成しました。

★地方競馬ニュース　文・宇田川淳★

●オーバルスプリント(浦和)でサンライズフレイムが重賞初制覇

オーバルスプリント(ＪｐｎⅢ、９月23日、浦和、1,400㍍)は、２番手から３コーナー過ぎに先頭に立ったサンライズフレイム(菱田裕二騎手、牡５歳、父ドレフォン)が後続を３馬身引き離して楽勝、１番人気に応えました。アウストロ(浦和)が２着に入り、３番人気のガビーズシスターは４着、ハッピーマンは６着、逃げた２番人気のエートラックスは７着に後退しています。

●矢野貴之騎手(大井)が園田のゴールデンジョッキーＣに優勝

９月24日に園田で全国から通算2000勝以上の騎手を集め、３レースのポイント制で争われたゴールデンジョッキーＣは、矢野貴之騎手(大井)が総合優勝。戸崎圭太騎手(美浦)は第２位、岩田康誠騎手(栗東)は第８位、横山典弘騎手(美浦)は第10位でした。

●10月１日の日本テレビ盃(船橋)にフォーエバーヤングが登場

日本テレビ盃(ＪｐｎⅡ、10月１日、船橋、1,800㍍)は、米国遠征を控える国内無敗のフォーエバーヤングが抜けた存在で、実績では２番手のＪｐｎⅠ２勝馬キングズソードは、昨年の帝王賞優勝以来の出走のため状態面が鍵となり、ライトウォーリア(川崎)、レヴォントゥレット、マーブルロックまでが争覇圏内と考えられます。

●ＪｐｎⅢ連勝を狙うカズタンジャー、９月30日の白山大賞典

白山大賞典(ＪｐｎⅢ、９月30日、金沢、2,100㍍)は、マーキュリーＣからの連勝を目指すカズタンジャーが最有力も、脚質的に波乱の要素もあるため、ディープリボーン、ピュアキアン、シンメデージー(高知)にもチャンスがあるほか、単騎逃げがベストのメイショウフンジンとジャスパーロブストの動向にも注目が集まります。

●メモリアカフェらが参戦、10月２日のマリーンＣ(船橋)

マリーンＣ(ＪｐｎⅢ、３歳牝馬、10月２日、船橋、1,800㍍)は、関東オークスを圧勝したメモリアカフェが中心、連対率10割のプロミストジーンが続き、以下クリノメイ、コパノエミリア(愛知)、プラウドフレール(船橋)の順に有力視され、サヴォンリンナは初のダートが課題となりそうです。

★海外競馬ニュース　文・秋山響★

●Ｇ１ペンシルベニアダービー～バエザがＧ１初制覇

現地９月20日にアメリカ・ペンシルベニア州のパークスレーシング競馬場で行われたＧ１ペンシルベニアダービー(３歳、ダート1,800㍍)はH.ベリオス騎手を背に中団のやや後方でレースを進めたバエザ(牡３歳、父マッキンジー、J.シレフス厩舎)が３コーナー過ぎでまくって、直線に向いたところで先頭に立つと、Ｇ２リズンスターＳの勝ち馬マグニテュードに２馬身1/4差をつけて優勝しました。勝ったバエザは2023年のケンタッキーダービー馬メイジや2024年のベルモントＳ勝ち馬ドーノックの半弟。これまでＧ１ではサンタアニタダービー２着、ケンタッキーダービー３着、ベルモントＳ３着と善戦止まりでしたが、ついにＧ１初制覇を果たしました。

●Ｇ１コティリオンＳ～クリコが４連勝でＧ１初制覇

上記したペンシルベニアダービーの１レース前に同じパークスレーシング競馬場で行われたＧ１コティリオンＳ(３歳牝、ダート1,700㍍)はI.オルティスJr.騎手が手綱を取ったクリコ(牝３歳、父クオリティロード、B.ウォルシュ厩舎)が中団から脚を伸ばして優勝しました。クビ差の２着に先行して粘ったＧ１・ＣＣＡオークス３着馬ドライパウダー。勝ったクリコはこれで初勝利を挙げた今年４月のデビュー２戦目(ダート1,400㍍)から４連勝。７月の前走Ｇ３インディアナオークス(ダート1,700㍍)を４馬身差で快勝して重賞初制覇を果たしていました。